

シラバス

科目名	英語リスニング I a		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	8単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	144時間(週講時数4)
授業目的	航空大学校の一次試験突破を目指す。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:550点				
授業概要	リスニングテキストにそって授業をすすめる。Dictationを行いRetainion skillを向上させる。音読練習で正しい発音をマスターする。				
授業計画表	授業内容				
	1	Part 1 人物の描写	19	Part 3: 社会と生活 Conversation A & B	
	2	Part 1 物の描写	20	Part 3: 社会と生活 Conversation C	
	3	Part 1 人物の動作と状況の描写	21	Part 3: 職場とビジネス Conversation A & B	
	4	Part 1 チャレンジ問題	22	Part 3: 職場とビジネス Conversation C	
	5	Part 1 実力テストとその解説	23	Part 3: 人事と研修 Conversation A & B	
	6	Part 2 Yes/No 疑問文	24	Part 3: 人事と研修 Conversation C	
	7	Part 2 選択疑問文	25	Part 3 チャレンジ問題	
	8	Part 2 依頼・許可 疑問文	26	Part 3 チャレンジ問題	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	Part 2 提案・勧誘 疑問文	28	Part 4: 電話メッセージ Talk A & B	
	11	Part 2 付加疑問文	29	Part 4: 電話メッセージ Talk C	
	12	Part 2 否定疑問文	30	Part 4: アナウンス Talk A & B	
	13	Part 2 肯定文・否定文	31	Part 4: アナウンス Talk C	
	14	Part 2 チャレンジ問題	32	Part 4: 宣伝 Talk A & B	
	15	Part 2 チャレンジ問題	33	Part 4: 宣伝Talk C	
	16	Part 2 実力テストとその解説	34	Part 4 チャレンジ問題	
	17	Part 2 実力テストとその解説	35	Part 4 チャレンジ問題	
	18	前期期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	英語文法 I		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ (必修選択)	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	航空大学校、海上保安学校航空課程、防衛省航空学生の一次試験突破を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:550点				
授業概要	高校で学習した英文法の総復習を行う。使用教材は、「英文法完全演習 Power Frame 850」				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	基本文型	19	形容詞と副詞の語法	
	2	語形(品詞の形)	20	形容詞と副詞のイディオム	
	3	語形(品詞の形)	21	関係詞	
	4	語形(品詞の形)	22	複合関係詞	
	5	時制	23	接続詞	
	6	態	24	疑問と否定	
	7	助動詞	25	名詞の冠詞の語法	
	8	不定詞	26	名詞のイディオム	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	動名詞	28	前置詞と群前置詞	
	11	不定詞と動名詞	29	その他の重要文法	
	12	分詞	30	会話表現①	
	13	動詞の語法	31	会話表現②	
	14	動詞のイディオム	32	まとめの問題演習①	
	15	仮定法	33	まとめの問題演習②	
	16	比較	34	まとめの問題演習③	
	17	代名詞	35	実力テストとその解説	
	18	前期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸㈱でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	英語リーディング I		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	航空大学校、海上保安学校航空課程、防衛省航空学生の一試験突破を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:550点				
授業概要	速読のスキルを身に付け、TOEIC Part7の解答数を上げ、正答率を上げる				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	速読演習1/ Part7 英文演習1	19	速読演習15/ Part7 英文演習15	
	2	速読演習2/ Part7 英文演習2	20	速読演習16/ Part7 英文演習16	
	3	速読演習3/ Part7 英文演習3	21	速読演習17/ Part7 英文演習17	
	4	速読演習4/ Part7 英文演習4	22	速読演習18/ Part7 英文演習18	
	5	速読演習5/ Part7 英文演習5	23	速読演習19/ Part7 英文演習19	
	6	速読演習6/ Part7 英文演習6	24	速読演習20/ Part7 英文演習20	
	7	速読演習7/ Part7 英文演習7	25	速読演習21/ Part7 英文演習21	
	8	実力テストとその解説	26	実力テストとその解説	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	速読演習8/ Part7 英文演習8	28	速読演習22/ Part7 英文演習22	
	11	速読演習9/ Part7 英文演習9	29	速読演習23/ Part7 英文演習23	
	12	速読演習10/ Part7 英文演習10	30	速読演習24/ Part7 英文演習24	
	13	速読演習11/ Part7 英文演習11	31	速読演習25/ Part7 英文演習25	
	14	速読演習12/ Part7 英文演習12	32	速読演習26/ Part7 英文演習26	
	15	速読演習13/ Part7 英文演習13	33	速読演習27/ Part7 英文演習27	
	16	速読演習14/ Part7 英文演習14	34	速読演習28/ Part7 英文演習28	
	17	実力テストとその解説	35	実力テストとその解説	
18	前期期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期期末試験→試験結果の確認と復習		
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に付けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	数的処理 I		担当者名	佐藤保幸	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	8単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	144時間(週講時数4)
授業目的	文章や資料を読み、表や図、数字を用いて論理的に考える力をつける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	各種公務員試験で出題割合の最も多い、数的処理の問題がどのようなものかを知り、解けるようにすることが目標である。				
授業概要	知能系の科目である。航大試験だけでなく、就職試験でも類似の問題が出題され、数的処理自体が、受験者の知能を測定するツールとしてだけでなく、社会に出て仕事を遂行する実務能力を測るツールとしても扱われている。数的処理と聞くと数学と勘違いしている学生が散見されるが、数学とは異なる。勿論、必要最低限の数学を使いこなすが、文章をしっかりと正確に読む「読解力」が強く要求される科目であり、文章の読み方などに焦点を当てて講義をしていく。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	計算/方程式の基礎	19	数量推理/操作手順	
	2	文章題(連立方程式, 不等式, 不定方程式)	20	証言推理	
	3	文章題(比と割合, 濃度, 損益算)	21	立体図形の基礎/正多面体とその展開図	
	4	速さ(速さの3要素, 旅人算, 周回算, 時計算, ダイアグラム)	22	立体の切断/スライス法	
	5	速さ(流水算, 通過算, 仕事算, ニュートン算)	23	投影図/位相図	
	6	整数問題(約数・倍数, 素数, 剰余)	24	これまでの総復習/後期中間テスト	
	7	整数問題(規則性, 数列, 虫食い・覆面算, 魔法陣)	25	サイコロと五面図/平面パズル	
	8	場合の数	26	軌跡	
	9	確率	27	回転体/円盤の回転	
	10	平面図形(三角形, 多角形, 円)	28	資料解釈の基礎/実数の表	
	11	これまでの総復習/前期中間テスト	29	構成比/割合	
	12	集合(ベン図, カルノー表・キャロル表, 線分図)	30	指数	
	13	論理(全称命題と存在命題, ベン図, 真偽表など)	31	対前年増加率	
	14	対応関係	32	これまでの総復習/後期期末テスト	
	15	試合(総当たり戦, 対戦日程, トーナメント戦)	33	相関図	
	16	これまでの総復習/前期期末テスト	34	様々な資料	
	17	順序関係(順位, 数量)	35	最適化(線形計画法, PERT法)	
	18	位置関係(方位, 部屋割り, 座席表)	36	その他	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>10% A<主体的参加型学習>40% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	担当教員の専門は応用数学(数理物理学)だが、数学の応用範囲は幅広く、自ずと専門対象も幅広く扱っている。実務的な応用例を紹介しながら、難しいことをかみ砕いてわかりやすく伝えていきたい。				

シラバス

科目名	数学 I a		担当者名	仲田まり子	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	8単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	144時間(週講時数4)
授業目的	公務員試験ならびにパイロット養成機関の試験合格に必要な基礎力を養う。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	高校で学んだ数 I・A・IIの基礎レベルの問題を理解し確実に解けるようになる。				
授業概要	航空大学校、航空学生等の受験に必要なとされるレベルの数学の問題を解くための土台作りをする。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	授業の進め方についてのガイダンス・プレースメントテスト	19	三角比の拡張	
	2	数と式 複雑な式の展開	20	正弦定理と余弦定理①	
	3	因数分解①	21	正弦定理と余弦定理②	
	4	因数分解②	22	正弦定理と余弦定理③	
	5	実数	23	三角形の面積、空間図形①	
	6	式の値①	24	三角形の面積、空間図形2	
	7	式の値②	25	図形の性質 三角形の外心、内心、重心①	
	8	一次不等式	26	三角形の外心、内心、重心②	
	9	二次関数 関数とグラフ①	27	三角形の色々な性質①	
	10	関数とグラフ②	28	三角形の色々な性質②	
	11	二次関数の最大最小①	29	円の基本性質	
	12	二次関数の最大最小②	30	円と直線①	
	13	二次方程式①	31	円と直線②	
	14	二次方程式②	32	空間図形	
	15	グラフとX軸の位置関係①	33	整数の性質 約数と倍数①	
	16	グラフとX軸の位置関係②	34	約数と倍数②	
	17	二次不等式	35	整数の性質の活用①	
	18	図形と計量 三角比の基礎	36	整数の性質の活用②	
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	授業時間の前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	20%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>0% A<主体的参加型学習>50% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。				

シラバス

科目名	自然科学 I c		担当者名	笹茂夫	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	物理の基本である力学とエネルギーの理解をしたうえで、電磁気の基礎を扱う。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	航空大学入試問題のうち、力学分野の基本問題が解けるようになることを目標とする。				
授業概要	力学の分野である落下運動、力のつりあい、運動の法則、力学的エネルギーおよび電磁気学の分野である電場と電位について学習する。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	物理の基礎練習 指数 有効数字他	19	2. 運動の法則	
	2	I・物体の運動 概要説明	20	3・作用反作用の法則	
	3	1・等速直線運動	21	4・静止摩擦力 動摩擦力 空気抵抗	
	4	2・相対速度	22	5・運動方程式	
	5	3・速度の合成と分解	23	V・剛体に働く力 概要説明	
	6	4・相対速度	24	1・力のモーメント	
	7	II・落下速度 概要説明	25	2・剛体に働く力の合成	
	8	1・自由落下	26	3・剛体のつりあい	
	9	2・鉛直投げおろし 鉛直投げ上げ	27	VI・力学的エネルギー 概要説明	
	10	3・水平投射	28	1・仕事の原理	
	11	4・斜方投射	29	2・仕事率	
	12	III・力のつりあい 概要説明	30	3・運動エネルギー 位置エネルギー	
	13	1・重力	31	4・力学的エネルギー保存の法則	
	14	2・糸の張力 弾性力	32	VII・電場と電位 概要説明	
	15	3・力の合成と分解と力のつりあい	33	1・電荷と静電気力	
	16	4・圧力と浮力	34	2・電場と静電気力	
	17	IV・運動の法則 概要説明	35	3・電位と電位差	
	18	1・慣性の法則	36	4・静電誘導と誘電分極	
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	講義に合わせた演習を毎回行ない質問を受け付ける。	
	学習態度	20%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において自然科学分野で十分な教育経験を有し、また現役の電気設備系技術者でもある。				

シラバス

科目名	社会科学 I a		担当者名	杉谷武信	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	政治や経済などの仕組みを理解し、公務員試験ならびにパイロット養成機関の試験に合格する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	公務員初級・中級程度の問題を理解し、解けるようにする。かつ、現状の政治や経済を論理的に理解し、それをもとにその現状を批判的にとらえる能力と、道徳性・視野の広さを身につける。				
授業概要	公務員試験に合格できる能力を身につけることを前提に、政治分野では日本国憲法における基本的人権、三権分立、選挙制度、国際連合の特徴やその意義、課題を学ぶ。経済分野では市場と企業の活動、そしてそれに関与する財政や中央銀行の金融政策の仕組みを学び、今日における自由主義政策や財政上の問題点を考え、かつそれらを解決するすべを考えていく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	ガイダンス 授業の方針	19	経済	市場経済(その1)
	2	政治 民主政治の基本原則と制度(その1)	20	経済	市場経済(その2)
	3	政治 民主政治の基本原則と制度(その2)	21	経済	市場経済(その3)
	4	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その1)	22	経済	国民経済の流れ(その1)
	5	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その2)	23	経済	国民経済の流れ(その2)
	6	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その3)	24	経済	国民経済の流れ(その3)
	7	政治 日本国憲法の統治機構(その1)	25	経済	国民経済の流れ(その4)
	8	政治 日本国憲法の統治機構(その2)	26		後期中間試験とその解説
	9	政治 日本国憲法の統治機構(その3)	27	経済	日本経済の発展(その1)
	10	政治 日本国憲法の統治機構(その4)	28	経済	日本経済の発展(その2)
	11	政治 政治の諸問題(その1)	29	経済	国際経済の動向と国際協力(その1)
	12	前期中間試験とその解説	30	経済	国際経済の動向と国際協力(その2)
	13	政治 政治の諸問題(その2)	31	社会	労働問題と消費者問題(その1)
	14	政治 政治の諸問題(その3)	32	社会	労働問題と消費者問題(その2)
	15	政治 国際政治(その1)	33	社会	人口問題(その1)
	16	政治 国際政治(その2)	34	社会	人口問題(その2)
	17	前期期末試験とその解説	35		後期期末試験とその解説
18	政治 国政政治(その3)	36	社会	地球環境問題	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>25% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>60% G<<海外体感型学習>>15%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。				

シラバス

科目名	航空無線(工学)		担当者名	阿部 鍼一	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	36時間(週講時数1)
授業目的	航空無線通信士国家試験の無線工学の学科の合格を目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	電気工学および電子工学の基礎を学び、航空無線通信士の無線工学の問題内容を理解し解答できる実力を養う。				
授業概要	前期は、電磁気学及び電気回路の基礎を学ぶ。後期は半導体理論の基礎及び電子部品の基礎について学び、さらに無線通信や航空管制装置などの原理について国家試験問題を中心に解説する。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	電波の性質1:電波の発生、基本的性質	19	半導体1:P形半導体、N形半導体	
	2	電波の性質2:波長と周波数、偏波	20	半導体2:ダイオードとトランジスタ	
	3	電界の性質1:静電誘導、静電界とクーロンの法則	21	半導体3:電界効果トランジスタ	
	4	電界の性質2:静電容量とコンデンサ	22	電子回路1:増幅の原理、負帰還増幅回路	
	5	磁界の性質:磁石、磁界	23	電子回路2:電力増幅回路、高周波増幅回路	
	6	電流の磁気作用1:右ねじの法則、フレミングの左手の法則	24	電子回路3:発振の原理、水晶発振回路	
	7	電流の磁気作用2:電磁誘導	25	電子回路4:変調と復調	
	8	電流の磁気作用3:フレミングの右手の法則	26	電子回路5:基本的論理回路	
	9	前期中間試験の解答と解説	27	後期中間試験の解答と解説	
	10	電気回路1:電圧と電流	28	無線通信装置1:無線通信システムの基礎	
	11	電気回路2:電力	29	無線通信装置2:AM送受信機	
	12	電気回路3:直流と交流、	30	無線通信装置3:FM送受信機	
	13	電気回路4:オームの法則、直流回路	31	無線通信装置4:衛星通信システムの概要	
	14	電気回路5:コンデンサとコイル	32	無線航法装置1:VORとDME	
	15	電気回路6:交流回路	33	無線航法装置2:ILS、電波高度計	
	16	電気回路7:導体と絶縁体	34	レーダ1:パルスレーダ、ドップラーレーダ	
	17	電気回路8:各種フィルター	35	レーダ2:航空管制用レーダ	
	18	前期期末試験の解答と解説	36	後期期末試験の解答と解説	
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	各章の終わりに例題を与え理解度をチェックする。	
	学習態度	30%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>100% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>0% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当講師は、専門学校において、無線従事者国家試験の無線工学および法規の受験対策指導を40年以上続け現在に至っている。				

シラバス

科目名	航空無線(法規)		担当者名	阿部 鍼一	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	36時間(週講時数1)
授業目的	航空無線通信士国家試験の電波法規について学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	航空無線通信士国家試験の電波法規の概要を理解し、試験問題について演習を行い合格を目指す。				
授業概要	毎回分野別の既出問題を与え、学生がテキストで調べて解答し、講師が正解と解説を行う。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	電波法の目的、概要、用語の定義	19	運用5:航空移動業務の通則について	
	2	無線局の免許1:無線局の開設、欠格事由等	20	運用6:航空移動業務の通信方法について1	
	3	無線局の免許2:予備免許、落成後の検査等	21	運用7:通信移動業務の通信方法について2	
	4	無線局の免許3:免許の有効期間、再免許、免許状記載事項等	22	運用8:遭難通信1	
	5	無線局の免許4:免許の承継、無線局の廃止等	23	運用9:遭難通信2	
	6	無線設備1:電波の質、電波の形式の表示等	24	運用10:遭難通信3	
	7	無線設備2:送信設備、受信設備	25	運用11:緊急通信	
	8	無線設備3:安全施設、保護装置	26	運用12:安全通信、非常通信	
	9	前期中間試験の解答と解説	27	後期中間試験の解答と解説	
	10	無線設備4:周波数測定装置、有効通達距離等	28	業務書類:時計、無線業務日誌等	
	11	無線設備5:無線航行設備	29	監督1:無線局の検査等	
	12	無線従事者1:資格制度、資格の種別等	30	監督2:無線局の免許の取り消し等	
	13	無線従事者2:主任無線従事者等	31	罰則等:不法開設、不法運用等	
	14	運用1:通則(免許状記載事項の遵守等)	32	国際法規1:国際電気通信連合憲章等	
	15	運用2:一般通信方法等	33	国際法規2:局の検査、執務時間等	
	16	運用3:連絡設定の方法等	34	国際法規3:国際電気通信規則等	
	17	運用4:試験電波の発射等	35	国際法規4:国際民間航空条約の概要	
	18	前期末試験の解答と解説	36	後期末試験の解答と解説	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	毎回、演習問題について学生に解答を聞き理解度等を確認する。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当講師は、専門学校において無線従事者国家試験の法規および無線工学の科目の受験指導を40年以上にわたり行い、現在に至っている。				

シラバス

科目名	フライトシミュレーション I b		担当者名	長野昭一・黒羽則和	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	36時間(週講時数1)
授業目的	パイロット養成機関の飛行適性検査の合格を目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	フライトシミュレーションを使った操縦技術を身に付けながら、飛行操作・知識・判断並びに社会性の向上を図る。				
授業概要	直線水平飛行や水平線飛行などの知識・技術を少しずつ身に付けながら、それまでに学んだ操縦技術を繰り返し、経験を重ねる。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	学習ガイダンス/シミュレータについて	19	ストール(失速 その1)	
	2	計器出発方式(その1)	20	ストール(失速 その2)	
	3	計器出発方式(その2)	21	ストール(失速 その3)	
	4	計器出発方式(その3)	22	スローフライト(その1)	
	5	直線水平飛行(その1)	23	スローフライト(その2)	
	6	直線水平飛行(その2)	24	スローフライト(その3)	
	7	直線水平飛行(その3)	25	計器進入方式(その1)	
	8	水平線旋回(その1)	26	計器進入方式(その2)	
	9	水平線旋回(その2)	27	計器進入方式(その3)	
	10	水平線旋回(その3)	28	トラフィックパターン(その1)	
	11	空中操作旋回バンク(20° その1)	29	トラフィックパターン(その2)	
	12	空中操作旋回バンク(20° その2)	30	トラフィックパターン(その3)	
	13	空中操作旋回バンク(30° その1)	31	ハンガー前ストップ(その1)	
	14	空中操作旋回バンク(30° その2)	32	ハンガー前ストップ(その2)	
	15	空中操作旋回バンク(45° その1)	33	ハンガー前ストップ(その3)	
	16	空中操作旋回バンク(45° その2)	34	トータル操縦演習(その1)	
	17	前期総合操作演習(その1)	35	トータル操縦演習(その2)	
	18	前期総合操作演習(その2)	36	トータル操縦演習(その3)	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>10% A<主体的参加型学習>50% G<海外体感型学習>0%				
講師プロフィール	担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。				

シラバス

科目名	基礎ゼミIA		担当者名	長野昭一・黒羽則和	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必・選・ 必修選択	授業時間数	36時間(週講時数1)
授業目的	パイロット養成機関の合格をめざす。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	パイロットないしは社会人として必要な視野の広さ、道徳性、コミュニケーション能力、信頼性を身につけていく。				
授業概要	航空保安施設や航空気象、航空安全の方法、さらには異文化理解や飛行のメカニズムなどを学びつつ、各自の関心を広げながら、パイロットの資質を獲得する。くわえて、インターナショナルウィーク参加や航空関連施設見学を通じて、視野の広さや道徳性、コミュニケーション能力を高めていく。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	前期ガイダンス 前期の授業方針について	19	後期ガイダンス 後期の授業方針について	
	2	航空保安施設の施設とその利用(その1)	20	健康管理(その1)	
	3	航空保安施設の施設とその利用(その2)	21	健康管理(その2)	
	4	航空保安施設の施設とその利用(その3)	22	異文化理解(その1)	
	5	航空気象(気象情報の種類)	23	異文化理解(その2)	
	6	航空気象(気象情報の利用 その1)	24	飛行のメカニズム(その1)	
	7	航空気象(気象情報の利用 その2)	25	飛行のメカニズム(その2)	
	8	航空安全の概要	26	空港の様子(その1)	
	9	安全に必要なこと 状況認識・意思決定	27	空港の様子(その2)	
	10	安全に必要なこと ワークロードマネジメント	28	航空法規 機長の権限(その1)	
	11	安全に必要なこと チームの形成	29	航空法規 機長の権限(その2)	
	12	安全に必要なこと コミュニケーション	30	航空業界研究 航空の強みとは(その1)	
	13	インターナショナルウィーク参加	31	航空業界研究 航空の強みとは(その2)	
	14	インターナショナルウィーク参加	32	航空業界研究 安全保障体制の現状	
	15	インターナショナルウィークの振り返り	33	航空業界研究 どのように世界の平和を築くか	
	16	空港見学(海上保安庁羽田航空基地)	34	機体工場見学(日本航空)	
	17	空港見学のふり取り	35	機体工場見学のふり取り	
18	前期まとめ 前期全授業についての質疑応答	36	後期まとめ 後期全授業についての質疑応答		
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>30% R<実働実践型学習>20% A<主体的参加型学習>40% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。				

シラバス

科目名	英語リスニングⅡ		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	航空大学校の一次試験突破をめざす				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:650点				
授業概要	リスニングテキストにそって授業をすすめる。Dictationを行いRetainion skillを向上させる。音読練習で正しい発音をマスターする。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	英検準1級① Part 1 Dialogs	19	Part 4 (No. 80-88 解き直し)	
	2	英検準1級① Part 2 Passages	20	Part 4 (No. 89-97 解き直し)	
	3	英検準1級① Part 3 Real-Life	21	Part 4 (No. 98-100 解き直し)/ 単語テスト	
	4	英検準1級② Part 1 Dialogs	22	TOEIC公式問題集 test2 Part 1-4	
	5	英検準1級② Part 2 Passages	23	Part 1 & 2 解き直し	
	6	英検準1級② Part 3 Real-Life	24	Part 3 (No. 32-40 解き直し)	
	7	英検準1級 実力テスト	25	Part 3 (No. 41-49 解き直し)	
	8	英検準1級 実力テスト	26	Part 3 (No. 50-58 解き直し)	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	TOEIC公式問題集 test1 Part 1-4	28	Part 3 (No. 59-67 解き直し)	
	11	Part 1 & 2 解き直し	29	Part 3 (No. 68-70 解き直し)	
	12	Part 3 (No. 32-40 解き直し)	30	Part 4 (No. 71-79 解き直し)	
	13	Part 3 (No. 41-49 解き直し)	31	Part 4 (No. 80-88 解き直し)	
	14	Part 3 (No. 50-58 解き直し)	32	Part 4 (No. 89-97 解き直し)	
	15	Part 3 (No. 59-67 解き直し)	33	Part 4 (No. 98-100 解き直し)/ 単語テスト	
	16	Part 3 (No. 68-70 解き直し)	34	英会話フレーズ暗唱(交通)	
	17	Part 4 (No. 71-79 解き直し)	35	英会話フレーズ暗唱(レストラン)	
	18	前期期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	英語文法Ⅱa		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	3単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	54時間(週講時数1 1/2)
授業目的	航空大学校、海上保安学校航空課程、防衛省航空学生の一試験突破を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:650点				
授業概要	一年次で学習したことをふまえ、過去問演習に取り組む				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	英文法総復習テストとその解説1	19	TOEIC 公式問題集 test1 Part 5 - 6	
	2	英文法総復習テストとその解説2	20	Part 5 Q & A	
	3	英文法総復習テストとその解説3	21	Part 5 Q & A	
	4	航空大学校 過去問演習1	22	Part 6 Q & A	
	5	航空大学校 過去問演習2	23	TOEIC 公式問題集 test2 Part 5 - 6	
	6	航空大学校 過去問演習3	24	Part 5 Q & A	
	7	航空大学校 予想問題に挑戦	25	Part 5 Q & A	
	8	航空大学校 予想問題に挑戦	26	Part 6 Q & A	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	航空学生 過去問演習1	28	TOEIC 公式問題集 test3 Part 5 - 7	
	11	航空学生 過去問演習2	29	Part 5 Q & A	
	12	航空学生 過去問演習3	30	Part 5 Q & A	
	13	海上保安学校 過去問演習1	31	Part 6 Q & A	
	14	海上保安学校 過去問演習2	32	TOEIC 公式問題集 test4 Part 5 - 7	
	15	海上保安学校 過去問演習3	33	Part 5 Q & A	
	16	海上保安学校 過去問演習4	34	Part 5 Q & A	
	17	海上保安学校 過去問演習5	35	Part 6 Q & A	
	18	前期期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	英語リーディングⅡa		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	3単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期 必修・選択	授業時間数	54時間(週講時数1 1/2)
授業目的	航空大学校、海上保安学校航空課程、防衛省航空学生の一次試験突破を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:650点				
授業概要	一年次で学習したことをふまえ、過去問演習に取り組む				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	航空大学校 過去問演習1	19	TOEIC 公式問題集 test1 Part 7	
	2	航空大学校 過去問演習2	20	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	3	航空大学校 過去問演習3	21	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	4	航空大学校対策 英検準1級英語長文	22	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	5	航空大学校対策 英検準1級英語長文	23	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	6	航空大学校対策 英検準1級英語長文	24	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	7	航空大学校対策 英検準1級英語長文	25	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	8	航空大学校対策 英検準1級英語長文	26	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	航空学生 過去問演習1	28	TOEIC 公式問題集 test2 Part 7	
	11	航空学生 過去問演習2	29	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	12	航空学生 過去問演習3	30	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	13	海上保安学校 過去問演習1	31	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	14	海上保安学校 過去問演習2	32	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	15	海上保安学校 過去問演習3	33	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	16	海上保安学校 過去問演習4	34	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	17	海上保安学校 過去問演習5	35	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	18	前期期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	数的処理Ⅱ		担当者名	佐藤保幸	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	8単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	144時間(週講時数4)
授業目的	文章や資料を読み、表や図、数字を用いて論理的に考える力をつける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	前期では1年時に学習した数的処理Ⅰに引き続き、数的処理の理解を深めていくことを目的とする。そして、数的処理の問題で正答率6割を目標に、点数の取り方を身に付けてもらいたい。後期では、財務諸表を読めるようにする。「読める」と一口で言っても、単に電卓をたたいて数字を出すわけではない。財務諸表を通じて、社会を知ってもらうことが目標である。				
授業概要	前期では、数的処理の数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈の4分野を総合的に演習しながら理解を深めていく。さらに、各問題の難易度の見分け方や点数の取り方など、実戦的な訓練を行っていく。後期では、数的処理で学んだ、割合、利益計算、推論、最適化、資料解釈の手法を用いて、有名企業の財務諸表の分析を行う。財務諸表は読み方だけでなく、財務諸表には何が書かれていて、何がわかるのか、逆に数字からわからないことは何かを知ることも大事である。この作業を通じて、企業の客観的な評価の仕方を学んでもらう。広い意味で「評価」とは何かを知る機会にもしたい。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	数的推理復習と応用	19	お金とは/通貨/価値とは/市場	
	2	数的推理復習と応用	20	需要と供給、需給曲線/物価/GDPと景気/デフレ・インフレ	
	3	数的推理演習	21	人口と労働/地価と不動産	
	4	判断推理復習と応用	22	経済主体(企業、家計、政府)/経済体制/アベノミクス	
	5	判断推理復習と応用	23	銀行の役割/信用/金利/ローンと複利計算/国債	
	6	判断推理演習	24	消費と投資(投機と投資の違い)/後期中間テスト	
	7	空間把握復習と応用	25	会社とは/企業経営/原価率/売上と利益	
	8	空間把握演習	26	営業活動とマーケティング/外部資本効果(借金・負債)のメリット・デメリット	
	9	資料解釈復習と応用	27	財務諸表とは/BSとPLの構造と関係	
	10	資料解釈演習	28	複式簿記で記帳する。	
	11	これまでの総復習/前期中間テスト	29	有名企業の財務諸表を読む①	
	12	数的処理演習	30	有名企業の財務諸表を読む②	
	13	数的処理演習	31	財務諸表分析①	
	14	数的処理演習	32	財務諸表分析②	
	15	数的処理演習	33	財務諸表分析③	
	16	これまでの総復習/前期期末テスト	34	財務諸表分析④	
	17	数的処理直前演習	35	後期期末テストとその解説	
18	数的処理直前演習	36	会社の評価(良い会社とは何だろうか)		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	20%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>15% A<主体的参加型学習>40% G<海外体感型学習>5%				
講師プロフィール	担当教員の専門は応用数学であり、数学の研究のみならず、統計学などのデータ分析、最適化、数理ファイナンスなどの門外漢から見ると高度な数学を、実務的に用いて仕事をすることも多い。社会に出てから使えることを主眼に置きつつ、応用数学の面白さも伝えていきたい。				

シラバス

科目名	数学Ⅱa		担当者名	仲田まり子	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	6単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	108時間(週講時数3)
授業目的	公務員試験ならびにパイロット養成機関の試験に合格する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	より実践的な解法・テクニックを使いこなせるようになる。				
授業概要	航空大学校・航空学生の受験に必要なとされるレベルの数学を身につける。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	式と計算 三次関数の展開と因数分解①	19	三角関数①	
	2	三次関数の展開と因数分解②	20	三角関数②	
	3	二項定理①	21	三角関数③	
	4	二項定理②	22	三角関数④	
	5	整式の割り算、分数式①	23	加法定理①	
	6	整式の割り算、分数式②	24	加法定理②	
	7	複素数と方程式 二次方程式の解と判別式①	25	加法定理③	
	8	二次方程式の解と判別式②	26	加法定理④	
	9	解と係数の関係①	27	指数関数①	
	10	解と係数の関係②	28	指数関数②	
	11	解と係数の関係③	29	対数関数①	
	12	解と係数の関係④	30	対数関数②	
	13	剰余の定理と因数定理①	31	微分①	
	14	剰余の定理と因数定理②	32	微分②	
	15	剰余の定理と因数定理③	33	積分①	
	16	剰余の定理と因数定理④	34	積分②	
	17	高次方程式①	35	ベクトルの内積、過去問演習①	
18	高次方程式②	36	ベクトルの内積、過去問演習②		
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	授業時間前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	20%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。				

シラバス

科目名	自然科学Ⅱa		担当者名	高橋市郎	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・通年 必修・選択・必修選択	授業時間数	72時間(週講時数4)
授業目的	物理学の基礎を習得し、自然現象を論理的に理解する能力を養う。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	航空大学入試問題、海上保安学校学生採用試験問題等のうち、物理学分野(特に力学、電磁気及び波動)の問題を解く能力を身につけること。				
授業概要	力学、電磁気、波動の基礎と応用的内容を扱い、基礎理論を習得した後、航空大学、海上保安学校等の既出入試問題演習を行う。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	コンデンサ(1)	19		
	2	コンデンサ(2)	20		
	3	電流と磁場(1)	21		
	4	電流と磁場(2)	22		
	5	電磁誘導(1)	23		
	6	電磁誘導(2)	24		
	7	運動量と力積(1)	25		
	8	運動量と力積(2)	26		
	9	円運動・単振動(1)	27		
	10	円運動・単振動(2)	28		
	11	波動(1)	29		
	12	波動(2)	30		
	13	航空大学、海上保安学校入試問題演習(1)	31		
	14	航空大学、海上保安学校入試問題演習(2)	32		
	15	航空大学、海上保安学校入試問題演習(3)	33		
	16	航空大学、海上保安学校入試問題演習(4)	34		
	17	航空大学、海上保安学校入試問題演習(5)	35		
18	航空大学、海上保安学校入試問題演習(6)	36			
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	授業の進度、水準は学生の理解度を考慮して進める。	
	学習態度	20%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>70% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>30% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において電気物理分野で十分な教育経験を有し、また大学において電気電子実験指導の経験を有す。				

シラバス

科目名	フライトシミュレーションⅡa		担当者名	長野昭一・黒羽則和	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	パイロット養成機関の飛行適性検査の合格を目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	フライトシミュレーションを使った操縦技術を身に付けながら、飛行操作・知識・判断並びに社会性の向上を図る。				
授業概要	直線水平飛行や水平線飛行などの知識・技術を少しずつ身に付けながら、それまでに学んだ操縦技術を繰り返し、経験を重ねる。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	学習ガイダンス/シミュレータについて	19	ストール(失速 その1)	
	2	計器出発方式(その1)	20	ストール(失速 その2)	
	3	計器出発方式(その2)	21	ストール(失速 その3)	
	4	計器出発方式(その3)	22	スローフライト(その1)	
	5	直線水平飛行(その1)	23	スローフライト(その2)	
	6	直線水平飛行(その2)	24	スローフライト(その3)	
	7	直線水平飛行(その3)	25	計器進入方式(その1)	
	8	水平線旋回(その1)	26	計器進入方式(その2)	
	9	水平線旋回(その2)	27	計器進入方式(その3)	
	10	水平線旋回(その3)	28	トラフィックパターン(その1)	
	11	空中操作旋回バンク(20° その1)	29	トラフィックパターン(その2)	
	12	空中操作旋回バンク(20° その2)	30	トラフィックパターン(その3)	
	13	空中操作旋回バンク(30° その1)	31	ハンガー前ストップ(その1)	
	14	空中操作旋回バンク(30° その2)	32	ハンガー前ストップ(その2)	
	15	空中操作旋回バンク(45° その1)	33	ハンガー前ストップ(その3)	
	16	空中操作旋回バンク(45° その2)	34	トータル操縦演習(その1)	
	17	前期総合操作演習(その1)	35	トータル操縦演習(その2)	
	18	前期総合操作演習(その2)	36	トータル操縦演習(その3)	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>10% A<主体的参加型学習>50% G<海外体感型学習>0%				
講師プロフィール	担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。				

シラバス

科目名	社会科学Ⅱb		担当者名	杉谷武信	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・通年 必修・選択・必修選択	授業時間数	36時間(週講時数2)
授業目的	政治や経済などの仕組みを理解し、公務員試験やパイロット養成機関に合格する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	公務員初級・中級程度の問題を理解し、解けるようにする。				
授業概要	1年次で学んだことをふまえ、公務員試験の問題演習に取り組む。とくに政治分野では各国の政治体制や日本国憲法における自由権・社会権、三権分立(国会・内閣・裁判所)、選挙制度、経済分野では国民所得や経気動向、財政や日銀の金融政策、社会分野では人口や地球環境問題など頻出されやすい事項に絞る。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	ガイダンス 授業の方針について	19		
	2	社会 社会保障制度のあゆみ(その1)	20		
	3	社会 社会保障制度のあゆみ(その2)	21		
	4	社会 医療問題	22		
	5	社会 環境問題・公害問題	23		
	6	問題演習 国家機能の変遷 社会契約説	24		
	7	問題演習 日本国憲法における基本的人権	25		
	8	問題演習 日本の三権分立	26		
	9	問題演習 市場と企業形態	27		
	10	問題演習 国民所得と景気動向、日銀の金融政策	28		
	11	問題演習 財政の仕組み	29		
	12	前期中間試験とその解説	30		
	13	問題演習 日本の経済発展	31		
	14	問題演習 国際経済体制	32		
	15	問題演習 労働関連法規と労働事情	33		
	16	問題演習 人口と地球環境問題	34		
	17	前期期末試験とその解説	35		
18	まとめ 全授業に対する質疑応答	36			
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>10% R<実働実践型学習>0% A<主体的参加型学習>80% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。				

シラバス

科目名	ケーススタディ		担当者名	瀬戸ロ仁	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	行政に関連する様々な問題や課題を確認し、どう対処すべきかを考えていく。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	公務員やパイロット、社会人にふさわしい倫理・道徳観ならびに知識を身につける。				
授業概要	授業ごとに用意された各種資料から今日の行政や国民生活が抱えるテーマ・課題をおさえた上で、各自は行政の一員(あるいは社会の一員)として、ディスカッションしながら、それらの理解につとめ、どのように業務を行うべきか、また生活していくべきかを考えていく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	ガイダンス 前期授業の内容と目的、目標、概要の説明	19	後期ガイダンス 後期授業の内容の説明	
	2	公務員の不祥事対策 セクハラ	20	公務員の仕事の特徴 避難勧告	
	3	公務員の不祥事対策 パワハラ	21	公務員の仕事の特徴 海上保安庁	
	4	高齢者対策	22	公務員の仕事の特徴 警察	
	5	男女共同参画社会をめざして	23	公務員の仕事の特徴 租税や生活保護	
	6	大規模水害対策	24	公務員の仕事の特徴 し尿処理	
	7	子どもの貧困対策	25	公務員の仕事の特徴 ごみ処理	
	8	児童虐待対策	26	性的犯罪に関する治安対策について	
	9	個人情報保護法について	27	薬物規制について	
	10	特定秘密保護法について	28	タトゥーの是非	
	11	マイナンバー制度について考える	29	障害者の社会参加について	
	12	前期中間試験とその解説	30	現代家族の形態	
	13	規制緩和の意義と問題点	31	リスク社会をどう生きるか	
	14	憲法改正と国民投票法	32	表現の自由をめぐる問題(その1)	
	15	討論の仕方(その1)	33	表現の自由をめぐる問題(その2)	
	16	討論の仕方(その2)	34	混迷する世界情勢をどう生きるか	
	17	前期期末試験とその解説	35	後期期末試験とその解説	
18	まとめ 前期の全授業についての質疑応答	36	まとめ 後期の全授業についての質疑応答		
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	授業の終わりに質問を受け付ける	
	学習態度	30%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》10% R《実働実践型学習》70% A《主体的参加型学習》10% G《海外体験型学習》10%				
講師プロフィール	担当教員は、サンケイスポーツ新聞社で記者として11年間プロ野球を担当。メジャーリーグを始めとする4大プロスポーツ、オリンピック、ワールドカップ等を取材。のち、産経新聞で記者として1年間政治等を取材。そのほか、東北福祉大学等で講師を担当。全国で公演活動を展開。				

シラバス

科目名	文章理解Ⅱ		担当者名	堀切昌美	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・通年 必修・選択 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	文章理解Ⅰの基礎力を定着させ、公務員採用試験一次突破することを目指し、国語力を高める				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	公務員一次試験の文章理解の問題に対し、自身をもって誤肢を消去することができる。社会人として恥ずかしくないように、熟語の読みや意味を理解できるようにする。				
授業概要	公務員科2学年との合同授業で、前期は公務員採用本試験に向けて、過去問を中心に実践力をつけていく。後期は、様々な文章を読み、要約したり意見交換することで社会に必要な実用文に慣れる。最終的に内定確定まで、就職試験対策のSPIIについてもフォローを継続し、指導していく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	文章合致問題を解く(1)	19	政府刊行物・白書から考える(1)	
	2	文章合致問題を解く(2)	20	政府刊行物・白書から考える(2)	
	3	趣旨把握問題を解く(1)	21	政府刊行物・白書から考える(3)	
	4	趣旨把握問題を解く(2)	22	政府刊行物・白書から考える(4)	
	5	空欄補充問題を解く(1)	23	政府刊行物・白書から考える(5)	
	6	空欄補充問題を解く(2)	24	SPI 言語分野対策(1)	
	7	文章整序問題を解く(1)	25	SPI 言語分野対策(2)	
	8	文章整序問題を解く(2)	26	後期中間試験とその解説	
	9	古文 合致問題・趣旨把握問題を解く(1)	27	グループディスカッション(1)	
	10	古文 合致問題・趣旨把握問題を解く(2)	28	グループディスカッション(2)	
	11	国語問題を解く(1)	29	グループディスカッション(3)	
	12	国語問題を解く(2)	30	いろいろな文章に触れる 業界紙	
	13	過去問題に挑戦(1)	31	いろいろな文章に触れる 雑誌	
	14	過去問題に挑戦(2)	32	グループワーク(1)	
	15	過去問題に挑戦(3)	33	グループワーク(2)	
	16	過去問題に挑戦(4)	34	新聞記事から考える(1)	
	17	過去問題に挑戦(5)	35	新聞記事から考える(2)	
	18	中間試験 ふりかえり	36	定期試験とその解説 まとめ	
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	適宜、小テストを実施する。また、調べたことを発表したり質問の場を設け知識の定着を図っていく。	
	学習態度	15%			
	レポート	15%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>20%				
講師プロフィール	担当教員は、私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。以上を通じて担当教員が培った日本語の能力や社会常識などを若い世代に学ばせるべく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。				

シラバス

科目名	総合講座Ⅱa		担当者名	堀切昌美	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	公務員・社会人にふさわしいマナーを身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	年2回実施される、文科省公認【ビジネス能力検定(ジョブパス)】の3級、2級の合格を目指す。				
授業概要	就職活動の準備として、また社会人の常識・マナーやモラルを習得するための学習を行う。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	キャリアとは / 仕事へのアプローチ/身だしなみの基本	19	時事問題を新聞記事から読み解く(その1)	
	2	将来の自分/仕事への取り組み方	20	時事問題を新聞記事から読み解く(その2)	
	3	組織人としての重要な心構え/仕事の進め方	21	社会人としてのルール・コンプライアンス	
	4	お客様第一主義・8つの意識	22	メモの重要性と取り方	
	5	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	23	ビジネス会話の特徴・目的	
	6	指示の受け方と報告・連絡・相談	24	商談にあたっての心構えと行動	
	7	話し方と聞き方のポイント	25	会議の基本的な流れ・議事録のポイント	
	8	尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い分け	26	人前で話す方法・話の構成	
	9	電話応対・来客応対と訪問のマナー	27	人前で話す 実践編	
	10	冠婚葬祭のマナー	28	チームワークの意義と重要性	
	11	仕事のマニュアル化	29	仕事に影響を及ぼす人間関係	
	12	ビジネス文書の基本	30	問題発見と解決の方法	
	13	統計データの作り方・読み方	31	論理的思考・分析方法	
	14	情報収集とメディアの活用	32	報告書の書き方・企画書の書き方	
	15	会社数字の読み方	33	社内文書と社外文書	
	16	ネットワークと電子メールの活用	34	国際経済と日本経済	
	17	ビジネス用語	35	ビジネスの基本と法律	
	18	前期定期試験 ふりかえり	36	後期試験とその解説	
成績割合	テスト	90%	学習FB方法	授業の開始終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	10%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	担当教員は、私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。以上を通じて担当教員が培ったビジネスマナーや社会常識などを若い世代に学ばせるべく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。				

シラバス

科目名	応用ゼミⅡA		担当者名	杉谷武信	
学科	航空学科 パイロットコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・通年 必修・選択・必修選択	授業時間数	36時間(週講時数2)
授業目的	政治や経済情勢が変化するなか、各自がパイロットや公務員、社会人として、どのように生きるべきかを考える。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	航空業界や一般企業で働くさいに必要な、将来の業界の動向について関心を高めつつ、論理的思考力やコミュニケーション力、幅広い視野、道徳性が身につく。				
授業概要	各自の将来の就職先となるさまざまな航空業界や一般企業の特徴を知ることが前提として、文献やweb資料を用いて、世界や日本の現状を調べながら、それらの将来について考える。さらに、各自が国民として、また社会人としてどのような社会をつくるべきかを考えていく。以上について、各自がレポートを作成し、プレゼンやディスカッションを行う。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	ガイダンス ゼミの方針について	19		
	2	資料の集め方	20		
	3	討論・質疑応答の方法	21		
	4	レジュメの作り方	22		
	5	プレゼンの仕方	23		
	6	レポートのまとめ方	24		
	7	社会の変化の探求(その1)	25		
	8	社会の変化の探求(その2)	26		
	9	社会の変化の探求(その3)	27		
	10	研究成果の中間報告会	28		
	11	航空業界や行政、企業はどのように変わっていくか(その1)	29		
	12	航空業界や行政、企業はどのように変わっていくか(その2)	30		
	13	航空業界や行政、企業はどのように変わっていくか(その3)	31		
	14	どのような社会をつくりたいか(その1)	32		
	15	どのような社会をつくりたいか(その2)	33		
	16	どのような社会をつくりたいか(その3)	34		
	17	研究成果報告 テクノス展に向けて	35		
	18	まとめ 全授業に関する質疑応答	36		
成績割合	レポート	35%	学習FB方法	授業開始前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	30%			
	プレゼンテーション	35%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>60% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において社会・人文科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。				

シラバス

科目名	英語リスニング I a		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	8単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期 必修・選択	通年 必修選択	授業時間数 144時間(週講時数4)
授業目的	航空大学の一次試験突破を目指す。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:550点				
授業概要	リスニングテキストにそって授業をすすめる。Dictationを行いRetainion skillを向上させる。音読練習で正しい発音をマスターする。				
授業計画表	授業内容				
	1	Part 1 人物の描写	19	Part 3: 社会と生活 Conversation A & B	
	2	Part 1 物の描写	20	Part 3: 社会と生活 Conversation C	
	3	Part 1 人物の動作と状況の描写	21	Part 3: 職場とビジネス Conversation A & B	
	4	Part 1 チャレンジ問題	22	Part 3: 職場とビジネス Conversation C	
	5	Part 1 実力テストとその解説	23	Part 3: 人事と研修 Conversation A & B	
	6	Part 2 Yes/No 疑問文	24	Part 3: 人事と研修 Conversation C	
	7	Part 2 選択疑問文	25	Part 3 チャレンジ問題	
	8	Part 2 依頼・許可 疑問文	26	Part 3 チャレンジ問題	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	Part 2 提案・勧誘 疑問文	28	Part 4: 電話メッセージ Talk A & B	
	11	Part 2 付加疑問文	29	Part 4: 電話メッセージ Talk C	
	12	Part 2 否定疑問文	30	Part 4: アナウンス Talk A & B	
	13	Part 2 肯定文・否定文	31	Part 4: アナウンス Talk C	
	14	Part 2 チャレンジ問題	32	Part 4: 宣伝 Talk A & B	
	15	Part 2 チャレンジ問題	33	Part 4: 宣伝Talk C	
	16	Part 2 実力テストとその解説	34	Part 4 チャレンジ問題	
	17	Part 2 実力テストとその解説	35	Part 4 チャレンジ問題	
	18	前期期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	英語文法 I		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	航空大学校、海上保安学校航空課程、防衛省航空学生的一次試験突破を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:550点				
授業概要	高校で学習した英文法の総復習を行う。使用教材は、「英文法完全演習 Power Frame 850」				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	基本文型	19	形容詞と副詞の語法	
	2	語形(品詞の形)	20	形容詞と副詞のイディオム	
	3	語形(品詞の形)	21	関係詞	
	4	語形(品詞の形)	22	複合関係詞	
	5	時制	23	接続詞	
	6	態	24	疑問と否定	
	7	助動詞	25	名詞の冠詞の語法	
	8	不定詞	26	名詞のイディオム	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	動名詞	28	前置詞と群前置詞	
	11	不定詞と動名詞	29	その他の重要文法	
	12	分詞	30	会話表現①	
	13	動詞の語法	31	会話表現②	
	14	動詞のイディオム	32	まとめの問題演習①	
	15	仮定法	33	まとめの問題演習②	
	16	比較	34	まとめの問題演習③	
	17	代名詞	35	実力テストとその解説	
	18	前期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸㈱でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	英語リーディング I		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・通年 必修・選択・(必修選択)	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	航空大学校、海上保安学校航空課程、防衛省航空学生の一試験突破を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:550点				
授業概要	速読のスキルを身に付け、TOEIC Part7の解答数を上げ、正答率を上げる				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	速読演習1/ Part7 英文演習1	19	速読演習15/ Part7 英文演習15	
	2	速読演習2/ Part7 英文演習2	20	速読演習16/ Part7 英文演習16	
	3	速読演習3/ Part7 英文演習3	21	速読演習17/ Part7 英文演習17	
	4	速読演習4/ Part7 英文演習4	22	速読演習18/ Part7 英文演習18	
	5	速読演習5/ Part7 英文演習5	23	速読演習19/ Part7 英文演習19	
	6	速読演習6/ Part7 英文演習6	24	速読演習20/ Part7 英文演習20	
	7	速読演習7/ Part7 英文演習7	25	速読演習21/ Part7 英文演習21	
	8	実力テストとその解説	26	実力テストとその解説	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	速読演習8/ Part7 英文演習8	28	速読演習22/ Part7 英文演習22	
	11	速読演習9/ Part7 英文演習9	29	速読演習23/ Part7 英文演習23	
	12	速読演習10/ Part7 英文演習10	30	速読演習24/ Part7 英文演習24	
	13	速読演習11/ Part7 英文演習11	31	速読演習25/ Part7 英文演習25	
	14	速読演習12/ Part7 英文演習12	32	速読演習26/ Part7 英文演習26	
	15	速読演習13/ Part7 英文演習13	33	速読演習27/ Part7 英文演習27	
	16	速読演習14/ Part7 英文演習14	34	速読演習28/ Part7 英文演習28	
	17	実力テストとその解説	35	実力テストとその解説	
	18	前期期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に付けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	数的処理 I		担当者名	佐藤保幸	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	8単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	144時間(週講時数4)
授業目的	文章や資料を読み、表や図、数字を用いて論理的に考える力をつける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	各種公務員試験で出題割合の最も多い、数的処理の問題がどのようなものかを知り、解けるようにすることが目標である。				
授業概要	知能系の科目である。航大試験だけでなく、就職試験でも類似の問題が出題され、数的処理自体が、受験者の知能を測定するツールとしてだけでなく、社会に出て仕事を遂行する実務能力を測るツールとしても扱われている。数的処理と聞くと数学と勘違いしている学生が散見されるが、数学とは異なる。勿論、必要最低限の数学を使いこなすが、文章をしっかり和正確に読む「読解力」が強く要求される科目であり、文章の読み方などに焦点を当てて講義をしていく。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	計算/方程式の基礎	19	数量推理/操作手順	
	2	文章題(連立方程式, 不等式, 不定方程式)	20	証言推理	
	3	文章題(比と割合, 濃度, 損益算)	21	立体図形の基礎/正多面体とその展開図	
	4	速さ(速さの3要素, 旅人算, 周回算, 時計算, ダイアグラム)	22	立体の切断/スライス法	
	5	速さ(流水算, 通過算, 仕事算, ニュートン算)	23	投影図/位相図	
	6	整数問題(約数・倍数, 素数, 剰余)	24	これまでの総復習/後期中間テスト	
	7	整数問題(規則性, 数列, 虫食い・覆面算, 魔法陣)	25	サイコロと五面図/平面パズル	
	8	場合の数	26	軌跡	
	9	確率	27	回転体/円盤の回転	
	10	平面図形(三角形, 多角形, 円)	28	資料解釈の基礎/実数の表	
	11	これまでの総復習/前期中間テスト	29	構成比/割合	
	12	集合(ベン図, カルノー表・キャロル表, 線分図)	30	指数	
	13	論理(全称命題と存在命題, ベン図, 真偽表など)	31	対前年増加率	
	14	対応関係	32	これまでの総復習/後期期末テスト	
	15	試合(総当たり戦, 対戦日程, トーナメント戦)	33	相関図	
	16	これまでの総復習/前期期末テスト	34	様々な資料	
	17	順序関係(順位, 数量)	35	最適化(線形計画法, PERT法)	
	18	位置関係(方位, 部屋割り, 座席表)	36	その他	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>10% A<主体的参加型学習>40% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	担当教員の専門は応用数学(数理物理学)だが、数学の応用範囲は幅広く、自ずと専門対象も幅広く扱っている。実務的な応用例を紹介しながら、難しいことをかみ砕いてわかりやすく伝えていきたい。				

シラバス

科目名	数学 I a		担当者名	仲田まり子	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	8単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	144時間(週講時数4)
授業目的	公務員試験ならびにパイロット養成機関の試験合格に必要な基礎力を養う。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	高校で学んだ数 I・A・IIの基礎レベルの問題を理解し確実に解けるようになる。				
授業概要	航空大学校、航空学生等の受験に必要とされるレベルの数学の問題を解くための土台作りをする。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	授業の進め方についてのガイダンス・プレースメントテスト	19	三角比の拡張	
	2	数と式 複雑な式の展開	20	正弦定理と余弦定理①	
	3	因数分解①	21	正弦定理と余弦定理②	
	4	因数分解②	22	正弦定理と余弦定理③	
	5	実数	23	三角形の面積、空間図形①	
	6	式の値①	24	三角形の面積、空間図形2	
	7	式の値②	25	図形の性質 三角形の外心、内心、重心①	
	8	一次不等式	26	三角形の外心、内心、重心②	
	9	二次関数 関数とグラフ①	27	三角形の色々な性質①	
	10	関数とグラフ②	28	三角形の色々な性質②	
	11	二次関数の最大最小①	29	円の基本性質	
	12	二次関数の最大最小②	30	円と直線①	
	13	二次方程式①	31	円と直線②	
	14	二次方程式②	32	空間図形	
	15	グラフとX軸の位置関係①	33	整数の性質 約数と倍数①	
	16	グラフとX軸の位置関係②	34	約数と倍数②	
	17	二次不等式	35	整数の性質の活用①	
	18	図形と計量 三角比の基礎	36	整数の性質の活用②	
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	授業時間の前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	20%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>0% A<主体的参加型学習>50% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。				

シラバス

科目名	自然科学 I c		担当者名	笹茂夫	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択 <u>必修選択</u>	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	物理の基本である力学とエネルギーの理解をしたうえで、電磁気の基礎を扱う。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	航空大学入試問題のうち、力学分野の基本問題が解けるようになることを目標とする。				
授業概要	力学の分野である落下運動、力のつりあい、運動の法則、力学的エネルギーおよび電磁気学の分野である電場と電位について学習する。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	物理の基礎練習 指数 有効数字他	19	2. 運動の法則	
	2	I・物体の運動 概要説明	20	3・作用反作用の法則	
	3	1・等速直線運動	21	4・静止摩擦力 動摩擦力 空気抵抗	
	4	2・相対速度	22	5・運動方程式	
	5	3・速度の合成と分解	23	V・剛体に働く力 概要説明	
	6	4・相対速度	24	1・力のモーメント	
	7	II・落下速度 概要説明	25	2・剛体に働く力の合成	
	8	1・自由落下	26	3・剛体のつりあい	
	9	2・鉛直投げおろし 鉛直投げ上げ	27	VI・力学的エネルギー 概要説明	
	10	3・水平投射	28	1・仕事の原理	
	11	4・斜方投射	29	2・仕事率	
	12	III・力のつりあい 概要説明	30	3・運動エネルギー 位置エネルギー	
	13	1・重力	31	4・力学的エネルギー保存の法則	
	14	2・糸の張力 弾性力	32	VII・電場と電位 概要説明	
	15	3・力の合成と分解と力のつりあい	33	1・電荷と静電気力	
	16	4・圧力と浮力	34	2・電場と静電気力	
	17	IV・運動の法則 概要説明	35	3・電位と電位差	
	18	1・慣性の法則	36	4・静電誘導と誘電分極	
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	講義に合わせた演習を毎回行ない質問を受け付ける。	
	学習態度	20%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において自然科学分野で十分な教育経験を有し、また現役の電気設備系技術者でもある。				

シラバス

科目名	社会科学 I a		担当者名	杉谷武信	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	政治や経済などの仕組みを理解し、公務員試験ならびにパイロット養成機関の試験に合格する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	公務員初級・中級程度の問題を理解し、解けるようにする。かつ、現状の政治や経済を論理的に理解し、それをもとにその現状を批判的にとらえる能力と、道徳性・視野の広さを身につける。				
授業概要	公務員試験に合格できる能力を身につけることを前提に、政治分野では日本国憲法における基本的人権、三権分立、選挙制度、国際連合の特徴やその意義、課題を学ぶ。経済分野では市場と企業の活動、そしてそれに関与する財政や中央銀行の金融政策の仕組みを学び、今日における自由主義政策や財政上の問題点を考え、かつそれらを解決するすべを考えていく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	ガイダンス 授業の方針	19	経済	市場経済(その1)
	2	政治 民主政治の基本原則と制度(その1)	20	経済	市場経済(その2)
	3	政治 民主政治の基本原則と制度(その2)	21	経済	市場経済(その3)
	4	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その1)	22	経済	国民経済の流れ(その1)
	5	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その2)	23	経済	国民経済の流れ(その2)
	6	政治 日本国憲法の基本原則と基本的人権(その3)	24	経済	国民経済の流れ(その3)
	7	政治 日本国憲法の統治機構(その1)	25	経済	国民経済の流れ(その4)
	8	政治 日本国憲法の統治機構(その2)	26		後期中間試験とその解説
	9	政治 日本国憲法の統治機構(その3)	27	経済	日本経済の発展(その1)
	10	政治 日本国憲法の統治機構(その4)	28	経済	日本経済の発展(その2)
	11	政治 政治の諸問題(その1)	29	経済	国際経済の動向と国際協力(その1)
	12	前期中間試験とその解説	30	経済	国際経済の動向と国際協力(その2)
	13	政治 政治の諸問題(その2)	31	社会	労働問題と消費者問題(その1)
	14	政治 政治の諸問題(その3)	32	社会	労働問題と消費者問題(その2)
	15	政治 国際政治(その1)	33	社会	人口問題(その1)
	16	政治 国際政治(その2)	34	社会	人口問題(その2)
	17	前期期末試験とその解説	35		後期期末試験とその解説
18	政治 国政政治(その3)	36	社会	地球環境問題	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>25% R<実働実践型学習>0% A<主体的参加型学習>60% G<海外体感型学習>15%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。				

シラバス

科目名	航空無線(工学)		担当者名	阿部 鍼一	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	36時間(週講時数1)
授業目的	航空無線通信士国家試験の無線工学の学科の合格を目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	電気工学および電子工学の基礎を学び、航空無線通信士の無線工学の問題内容を理解し解答できる実力を養う。				
授業概要	前期は、電磁気学及び電気回路の基礎を学ぶ。後期は半導体理論の基礎及び電子部品の基礎について学び、さらに無線通信や航空管制装置などの原理について国家試験問題を中心に解説する。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	電波の性質1:電波の発生、基本的性質	19	半導体1:P形半導体、N形半導体	
	2	電波の性質2:波長と周波数、偏波	20	半導体2:ダイオードとトランジスタ	
	3	電界の性質1:静電誘導、静電界とクーロンの法則	21	半導体3:電界効果トランジスタ	
	4	電界の性質2:静電容量とコンデンサ	22	電子回路1:増幅の原理、負帰還増幅回路	
	5	磁界の性質:磁石、磁界	23	電子回路2:電力増幅回路、高周波増幅回路	
	6	電流の磁気作用1:右ねじの法則、フレミングの左手の法則	24	電子回路3:発振の原理、水晶発振回路	
	7	電流の磁気作用2:電磁誘導	25	電子回路4:変調と復調	
	8	電流の磁気作用3:フレミングの右手の法則	26	電子回路5:基本的論理回路	
	9	前期中間試験の解答と解説	27	後期中間試験の解答と解説	
	10	電気回路1:電圧と電流	28	無線通信装置1:無線通信システムの基礎	
	11	電気回路2:電力	29	無線通信装置2:AM送受信機	
	12	電気回路3:直流と交流、	30	無線通信装置3:FM送受信機	
	13	電気回路4:オームの法則、直流回路	31	無線通信装置4:衛星通信システムの概要	
	14	電気回路5:コンデンサとコイル	32	無線航法装置1:VORとDME	
	15	電気回路6:交流回路	33	無線航法装置2:ILS、電波高度計	
	16	電気回路7:導体と絶縁体	34	レーダ1:パルスレーダ、ドップラーレーダ	
	17	電気回路8:各種フィルター	35	レーダ2:航空管制用レーダ	
	18	前期期末試験の解答と解説	36	後期期末試験の解答と解説	
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	各章の終わりに例題を与え理解度をチェックする。	
	学習態度	30%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>100% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>0% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当講師は、専門学校において、無線従事者国家試験の無線工学および法規の受験対策指導を40年以上続け現在に至っている。				

シラバス

科目名	航空無線(法規)		担当者名	阿部 鍼一	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期 必修・選択・ 通年 必修選択	授業時間数	36時間(週講時数1)
授業目的	航空無線通信士国家試験の電波法規について学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	航空無線通信士国家試験の電波法規の概要を理解し、試験問題について演習を行い合格を目指す。				
授業概要	毎回分野別の既出問題を与え、学生がテキストで調べて解答し、講師が正解と解説を行う。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	電波法の目的、概要、用語の定義	19	運用5:航空移動業務の通則について	
	2	無線局の免許1:無線局の開設、欠格事由等	20	運用6:航空移動業務の通信方法について1	
	3	無線局の免許2:予備免許、落成後の検査等	21	運用7:通信移動業務の通信方法について2	
	4	無線局の免許3:免許の有効期間、再免許、免許状記載事項等	22	運用8:遭難通信1	
	5	無線局の免許4:免許の承継、無線局の廃止等	23	運用9:遭難通信2	
	6	無線設備1:電波の質、電波の形式の表示等	24	運用10:遭難通信3	
	7	無線設備2:送信設備、受信設備	25	運用11:緊急通信	
	8	無線設備3:安全施設、保護装置	26	運用12:安全通信、非常通信	
	9	前期中間試験の解答と解説	27	後期中間試験の解答と解説	
	10	無線設備4:周波数測定装置、有効通達距離等	28	業務書類:時計、無線業務日誌等	
	11	無線設備5:無線航行設備	29	監督1:無線局の検査等	
	12	無線従事者1:資格制度、資格の種別等	30	監督2:無線局の免許の取り消し等	
	13	無線従事者2:主任無線従事者等	31	罰則等:不法開設、不法運用等	
	14	運用1:通則(免許状記載事項の遵守等)	32	国際法規1:国際電気通信連合憲章等	
	15	運用2:一般通信方法等	33	国際法規2:局の検査、執務時間等	
	16	運用3:連絡設定の方法等	34	国際法規3:国際電気通信規則等	
	17	運用4:試験電波の発射等	35	国際法規4:国際民間航空条約の概要	
	18	前期末試験の解答と解説	36	後期末試験の解答と解説	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	毎回、演習問題について学生に解答を聞き理解度等を確認する。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当講師は、専門学校において無線従事者国家試験の法規および無線工学の科目の受験指導を40年以上にわたり行い、現在に至っている。				

シラバス

科目名	フライトシミュレーション I b		担当者名	長野昭一・黒羽則和	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期 通年 必修・選択・必修選択	授業時間数	36時間(週講時数1)
授業目的	パイロット養成機関の飛行適性検査の合格を目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	フライトシミュレーションを使った操縦技術を身に付けながら、飛行操作・知識・判断並びに社会性の向上を図る。				
授業概要	直線水平飛行や水平線飛行などの知識・技術を少しずつ身に付けながら、それまでに学んだ操縦技術を繰り返し、経験を重ねる。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	学習ガイダンス/シミュレータについて	19	ストール(失速 その1)	
	2	計器出発方式(その1)	20	ストール(失速 その2)	
	3	計器出発方式(その2)	21	ストール(失速 その3)	
	4	計器出発方式(その3)	22	スローフライト(その1)	
	5	直線水平飛行(その1)	23	スローフライト(その2)	
	6	直線水平飛行(その2)	24	スローフライト(その3)	
	7	直線水平飛行(その3)	25	計器進入方式(その1)	
	8	水平線旋回(その1)	26	計器進入方式(その2)	
	9	水平線旋回(その2)	27	計器進入方式(その3)	
	10	水平線旋回(その3)	28	トラフィックパターン(その1)	
	11	空中操作旋回バンク(20° その1)	29	トラフィックパターン(その2)	
	12	空中操作旋回バンク(20° その2)	30	トラフィックパターン(その3)	
	13	空中操作旋回バンク(30° その1)	31	ハンガー前ストップ(その1)	
	14	空中操作旋回バンク(30° その2)	32	ハンガー前ストップ(その2)	
	15	空中操作旋回バンク(45° その1)	33	ハンガー前ストップ(その3)	
	16	空中操作旋回バンク(45° その2)	34	トータル操縦演習(その1)	
	17	前期総合操作演習(その1)	35	トータル操縦演習(その2)	
	18	前期総合操作演習(その2)	36	トータル操縦演習(その3)	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>10% A<主体的参加型学習>50% G<海外体感型学習>0%				
講師プロフィール	担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。				

シラバス

科目名	基礎ゼミIA		担当者名	長野昭一・黒羽則和	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	36時間(週講時数1)
授業目的	パイロット養成機関の合格をめざす。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	パイロットないしは社会人として必要な視野の広さ、道徳性、コミュニケーション能力、信頼性を身につけていく。				
授業概要	航空保安施設や航空気象、航空安全の方法、さらには異文化理解や飛行のメカニズムなどを学びつつ、各自の関心を広げながら、パイロットの資質を獲得する。くわえて、インターナショナルウィーク参加や航空関連施設見学を通じて、視野の広さや道徳性、コミュニケーション能力を高めていく。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	前期ガイダンス 前期の授業方針について	19	後期ガイダンス 後期の授業方針について	
	2	航空保安施設の施設とその利用(その1)	20	健康管理(その1)	
	3	航空保安施設の施設とその利用(その2)	21	健康管理(その2)	
	4	航空保安施設の施設とその利用(その3)	22	異文化理解(その1)	
	5	航空気象(気象情報の種類)	23	異文化理解(その2)	
	6	航空気象(気象情報の利用 その1)	24	飛行のメカニズム(その1)	
	7	航空気象(気象情報の利用 その2)	25	飛行のメカニズム(その2)	
	8	航空安全の概要	26	空港の様子(その1)	
	9	安全に必要なこと 状況認識・意思決定	27	空港の様子(その2)	
	10	安全に必要なこと ワークロードマネジメント	28	航空法規 機長の権限(その1)	
	11	安全に必要なこと チームの形成	29	航空法規 機長の権限(その2)	
	12	安全に必要なこと コミュニケーション	30	航空業界研究 航空の強みとは(その1)	
	13	インターナショナルウィーク参加	31	航空業界研究 航空の強みとは(その2)	
	14	インターナショナルウィーク参加	32	航空業界研究 安全保障体制の現状	
	15	インターナショナルウィークの振り返り	33	航空業界研究 どのように世界の平和を築くか	
	16	空港見学(海上保安庁羽田航空基地)	34	機体工場見学(日本航空)	
	17	空港見学のふり返り	35	機体工場見学のふり返り	
	18	前期まとめ 前期全授業についての質疑応答	36	後期まとめ 後期全授業についての質疑応答	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。				

シラバス

科目名	英語リスニングⅡ		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	航空大学校の一次試験突破をめざす				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:650点				
授業概要	リスニングテキストにそって授業をすすめる。Dictationを行いRetainion skillを向上させる。音読練習で正しい発音をマスターする。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	英検準1級① Part 1 Dialogs	19	Part 4 (No. 80-88 解き直し)	
	2	英検準1級① Part 2 Passages	20	Part 4 (No. 89-97 解き直し)	
	3	英検準1級① Part 3 Real-Life	21	Part 4 (No. 98-100 解き直し)/ 単語テスト	
	4	英検準1級② Part 1 Dialogs	22	TOEIC公式問題集 test2 Part 1-4	
	5	英検準1級② Part 2 Passages	23	Part 1 & 2 解き直し	
	6	英検準1級② Part 3 Real-Life	24	Part 3 (No. 32-40 解き直し)	
	7	英検準1級 実力テスト	25	Part 3 (No. 41-49 解き直し)	
	8	英検準1級 実力テスト	26	Part 3 (No. 50-58 解き直し)	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	TOEIC公式問題集 test1 Part 1-4	28	Part 3 (No. 59-67 解き直し)	
	11	Part 1 & 2 解き直し	29	Part 3 (No. 68-70 解き直し)	
	12	Part 3 (No. 32-40 解き直し)	30	Part 4 (No. 71-79 解き直し)	
	13	Part 3 (No. 41-49 解き直し)	31	Part 4 (No. 80-88 解き直し)	
	14	Part 3 (No. 50-58 解き直し)	32	Part 4 (No. 89-97 解き直し)	
	15	Part 3 (No. 59-67 解き直し)	33	Part 4 (No. 98-100 解き直し)/ 単語テスト	
	16	Part 3 (No. 68-70 解き直し)	34	英会話フレーズ暗唱(交通)	
	17	Part 4 (No. 71-79 解き直し)	35	英会話フレーズ暗唱(レストラン)	
	18	前期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	英語文法Ⅱa		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	3単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ <u>通年</u> 必修・選択・ <u>必修選択</u>	授業時間数	54時間(週講時数1 1/2)
授業目的	航空大学校、海上保安学校航空課程、防衛省航空学生の一試験突破を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:650点				
授業概要	一年次で学習したことをふまえ、過去問演習に取り組む				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	英文法総復習テストとその解説1	19	TOEIC 公式問題集 test1 Part 5 - 6	
	2	英文法総復習テストとその解説2	20	Part 5 Q & A	
	3	英文法総復習テストとその解説3	21	Part 5 Q & A	
	4	航空大学校 過去問演習1	22	Part 6 Q & A	
	5	航空大学校 過去問演習2	23	TOEIC 公式問題集 test2 Part 5 - 6	
	6	航空大学校 過去問演習3	24	Part 5 Q & A	
	7	航空大学校 予想問題に挑戦	25	Part 5 Q & A	
	8	航空大学校 予想問題に挑戦	26	Part 6 Q & A	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	航空学生 過去問演習1	28	TOEIC 公式問題集 test3 Part 5 - 7	
	11	航空学生 過去問演習2	29	Part 5 Q & A	
	12	航空学生 過去問演習3	30	Part 5 Q & A	
	13	海上保安学校 過去問演習1	31	Part 6 Q & A	
	14	海上保安学校 過去問演習2	32	TOEIC 公式問題集 test4 Part 5 - 7	
	15	海上保安学校 過去問演習3	33	Part 5 Q & A	
	16	海上保安学校 過去問演習4	34	Part 5 Q & A	
	17	海上保安学校 過去問演習5	35	Part 6 Q & A	
	18	前期期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	英語リーディングⅡa		担当者名	高野美智子	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	3単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期 必修・選択	授業時間数	54時間(週講時数1 1/2)
授業目的	航空大学校、海上保安学校航空課程、防衛省航空学生の一次試験突破を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	TOEIC公開試験を年2回受験する。目標スコア:650点				
授業概要	一年次で学習したことをふまえ、過去問演習に取り組む				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	航空大学校 過去問演習1	19	TOEIC 公式問題集 test1 Part 7	
	2	航空大学校 過去問演習2	20	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	3	航空大学校 過去問演習3	21	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	4	航空大学校対策 英検準1級英語長文	22	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	5	航空大学校対策 英検準1級英語長文	23	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	6	航空大学校対策 英検準1級英語長文	24	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	7	航空大学校対策 英検準1級英語長文	25	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	8	航空大学校対策 英検準1級英語長文	26	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	9	前期中間試験→試験結果の確認と復習	27	後期中間試験→試験結果の確認と復習	
	10	航空学生 過去問演習1	28	TOEIC 公式問題集 test2 Part 7	
	11	航空学生 過去問演習2	29	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	12	航空学生 過去問演習3	30	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	13	海上保安学校 過去問演習1	31	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	14	海上保安学校 過去問演習2	32	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	15	海上保安学校 過去問演習3	33	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	16	海上保安学校 過去問演習4	34	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	17	海上保安学校 過去問演習5	35	Part 7 英文→和訳 Q & A	
	18	前期期末試験→試験結果の確認と復習	36	後期期末試験→試験結果の確認と復習	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>0% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>100% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は、全日本空輸(株)でCA、米系日本法人企業において外国人付秘書並びに人事採用担当、また米系金融日本法人企業の法務部にて弁護士アシスタントの仕事をした経験を持つ。英語は、カナダ、アメリカで3年間過ごした経験から身に着けたスキルである。(TOEIC 970)				

シラバス

科目名	数的処理Ⅱ		担当者名	佐藤保幸	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	8単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	144時間(週講時数4)
授業目的	文章や資料を読み、表や図、数字を用いて論理的に考える力をつける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	前期では1年時に学習した数的処理Ⅰに引き続き、数的処理の理解を深めていくことを目的とする。そして、数的処理の問題で正答率6割を目標に、点数の取り方を身に付けてもらいたい。後期では、財務諸表を読めるようにする。「読める」と一口で言っても、単に電卓をたたいて数字を出すわけではない。財務諸表を通じて、社会を知ってもらうことが目標である。				
授業概要	前期では、数的処理の数的推理、判断推理、空間把握、資料解釈の4分野を総合的に演習しながら理解を深めていく。さらに、各問題の難易度の見分け方や点数の取り方など、実戦的な訓練を行っていく。後期では、数的処理で学んだ、割合、利益計算、推論、最適化、資料解釈の手法を用いて、有名企業の財務諸表の分析を行う。財務諸表は読み方だけでなく、財務諸表には何が書かれていて、何がわかるのか、逆に数字からわからないことは何かを知ることも大事である。この作業を通じて、企業の客観的な評価の仕方を学んでもらう。広い意味で「評価」とは何かを知る機会にもしたい。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	数的推理復習と応用	19	お金とは/通貨/価値とは/市場	
	2	数的推理復習と応用	20	需要と供給、需給曲線/物価/GDPと景気/デフレ・インフレ	
	3	数的推理演習	21	人口と労働/地価と不動産	
	4	判断推理復習と応用	22	経済主体(企業、家計、政府)/経済体制/アベノミクス	
	5	判断推理復習と応用	23	銀行の役割/信用/金利/ローンと複利計算/国債	
	6	判断推理演習	24	消費と投資(投機と投資の違い)/後期中間テスト	
	7	空間把握復習と応用	25	会社とは/企業経営/原価率/売上と利益	
	8	空間把握演習	26	営業活動とマーケティング/外部資本効果(借金・負債)のメリット・デメリット	
	9	資料解釈復習と応用	27	財務諸表とは/BSとPLの構造と関係	
	10	資料解釈演習	28	複式簿記で記帳する。	
	11	これまでの総復習/前期中間テスト	29	有名企業の財務諸表を読む①	
	12	数的処理演習	30	有名企業の財務諸表を読む②	
	13	数的処理演習	31	財務諸表分析①	
	14	数的処理演習	32	財務諸表分析②	
	15	数的処理演習	33	財務諸表分析③	
	16	これまでの総復習/前期期末テスト	34	財務諸表分析④	
	17	数的処理直前演習	35	後期期末テストとその解説	
18	数的処理直前演習	36	会社の評価(良い会社とは何だろうか)		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	レポート	20%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>15% A<主体的参加型学習>40% G<海外体感型学習>5%				
講師プロフィール	担当教員の専門は応用数学であり、数学の研究のみならず、統計学などのデータ分析、最適化、数理ファイナンスなどの門外漢から見ると高度な数学を、実務的に用いて仕事をすることも多い。社会に出てから使えることを主眼に置きつつ、応用数学の面白さも伝えていきたい。				

シラバス

科目名	数学Ⅱa		担当者名	仲田まり子	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	6単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	108時間(週講時数3)
授業目的	公務員試験ならびにパイロット養成機関の試験に合格する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	より実践的な解法・テクニックを使いこなせるようになる。				
授業概要	航空大学校・航空学生の受験に必要なとされるレベルの数学を身につける。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	式と計算 三次関数の展開と因数分解①	19	三角関数①	
	2	三次関数の展開と因数分解②	20	三角関数②	
	3	二項定理①	21	三角関数③	
	4	二項定理②	22	三角関数④	
	5	整式の割り算、分数式①	23	加法定理①	
	6	整式の割り算、分数式②	24	加法定理②	
	7	複素数と方程式 二次方程式の解と判別式①	25	加法定理③	
	8	二次方程式の解と判別式②	26	加法定理④	
	9	解と係数の関係①	27	指数関数①	
	10	解と係数の関係②	28	指数関数②	
	11	解と係数の関係③	29	対数関数①	
	12	解と係数の関係④	30	対数関数②	
	13	剰余の定理と因数定理①	31	微分①	
	14	剰余の定理と因数定理②	32	微分②	
	15	剰余の定理と因数定理③	33	積分①	
	16	剰余の定理と因数定理④	34	積分②	
	17	高次方程式①	35	ベクトルの内積、過去問演習①	
18	高次方程式②	36	ベクトルの内積、過去問演習②		
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	授業時間前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	20%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	担当教員は、専門学校において数学や心理学で十分な教育経験を有している。				

シラバス

科目名	自然科学Ⅱa		担当者名	高橋市郎	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・通年 必修・選択・必修選択	授業時間数	72時間(週講時数4)
授業目的	物理学の基礎を習得し、自然現象を論理的に理解する能力を養う。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	航空大学入試問題、海上保安学校学生採用試験問題等のうち、物理学分野(特に力学、電磁気及び波動)の問題を解く能力を身につけること。				
授業概要	力学、電磁気、波動の基礎と応用的内容を扱い、基礎理論を習得した後、航空大学、海上保安学校等の既出入試問題演習を行う。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	コンデンサ(1)	19		
	2	コンデンサ(2)	20		
	3	電流と磁場(1)	21		
	4	電流と磁場(2)	22		
	5	電磁誘導(1)	23		
	6	電磁誘導(2)	24		
	7	運動量と力積(1)	25		
	8	運動量と力積(2)	26		
	9	円運動・単振動(1)	27		
	10	円運動・単振動(2)	28		
	11	波動(1)	29		
	12	波動(2)	30		
	13	航空大学、海上保安学校入試問題演習(1)	31		
	14	航空大学、海上保安学校入試問題演習(2)	32		
	15	航空大学、海上保安学校入試問題演習(3)	33		
	16	航空大学、海上保安学校入試問題演習(4)	34		
	17	航空大学、海上保安学校入試問題演習(5)	35		
18	航空大学、海上保安学校入試問題演習(6)	36			
成績割合	テスト	80%	学習FB方法	授業の進度、水準は学生の理解度を考慮して進める。	
	学習態度	20%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>70% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>30% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において電気物理分野で十分な教育経験を有し、また大学において電気電子実験指導の経験を有す。				

シラバス

科目名	フライトシミュレーションⅡa		担当者名	長野昭一・黒羽則和	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	パイロット養成機関の飛行適性検査の合格を目的とする。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	フライトシミュレーションを使った操縦技術を身に付けながら、飛行操作・知識・判断並びに社会性の向上を図る。				
授業概要	直線水平飛行や水平線飛行などの知識・技術を少しずつ身に付けながら、それまでに学んだ操縦技術を繰り返し、経験を重ねる。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	学習ガイダンス/シミュレータについて	19	ストール(失速 その1)	
	2	計器出発方式(その1)	20	ストール(失速 その2)	
	3	計器出発方式(その2)	21	ストール(失速 その3)	
	4	計器出発方式(その3)	22	スローフライト(その1)	
	5	直線水平飛行(その1)	23	スローフライト(その2)	
	6	直線水平飛行(その2)	24	スローフライト(その3)	
	7	直線水平飛行(その3)	25	計器進入方式(その1)	
	8	水平線旋回(その1)	26	計器進入方式(その2)	
	9	水平線旋回(その2)	27	計器進入方式(その3)	
	10	水平線旋回(その3)	28	トラフィックパターン(その1)	
	11	空中操作旋回バンク(20° その1)	29	トラフィックパターン(その2)	
	12	空中操作旋回バンク(20° その2)	30	トラフィックパターン(その3)	
	13	空中操作旋回バンク(30° その1)	31	ハンガー前ストップ(その1)	
	14	空中操作旋回バンク(30° その2)	32	ハンガー前ストップ(その2)	
	15	空中操作旋回バンク(45° その1)	33	ハンガー前ストップ(その3)	
	16	空中操作旋回バンク(45° その2)	34	トータル操縦演習(その1)	
	17	前期総合操作演習(その1)	35	トータル操縦演習(その2)	
	18	前期総合操作演習(その2)	36	トータル操縦演習(その3)	
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前と終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>10% A<主体的参加型学習>50% G<海外体感型学習>0%				
講師プロフィール	担当教員は日本航空の国際線・国内線の元パイロットである。				

シラバス

科目名	社会科学Ⅱb		担当者名	杉谷武信	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・通年 必修・選択・必修選択	授業時間数	36時間(週講時数2)
授業目的	政治や経済などの仕組みを理解し、公務員試験やパイロット養成機関に合格する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	公務員初級・中級程度の問題を理解し、解けるようにする。				
授業概要	1年次で学んだことをふまえ、公務員試験の問題演習に取り組む。とくに政治分野では各国の政治体制や日本国憲法における自由権・社会権、三権分立(国会・内閣・裁判所)、選挙制度、経済分野では国民所得や経気動向、財政や日銀の金融政策、社会分野では人口や地球環境問題など頻出されやすい事項に絞り込む。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	ガイダンス 授業の方針について	19		
	2	社会 社会保障制度のあゆみ(その1)	20		
	3	社会 社会保障制度のあゆみ(その2)	21		
	4	社会 医療問題	22		
	5	社会 環境問題・公害問題	23		
	6	問題演習 国家機能の変遷 社会契約説	24		
	7	問題演習 日本国憲法における基本的人権	25		
	8	問題演習 日本の三権分立	26		
	9	問題演習 市場と企業形態	27		
	10	問題演習 国民所得と景気動向、日銀の金融政策	28		
	11	問題演習 財政の仕組み	29		
	12	前期中間試験とその解説	30		
	13	問題演習 日本の経済発展	31		
	14	問題演習 国際経済体制	32		
	15	問題演習 労働関連法規と労働事情	33		
	16	問題演習 人口と地球環境問題	34		
	17	前期期末試験とその解説	35		
18	まとめ 全授業に対する質疑応答	36			
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	授業開始前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	40%			
	合計	100%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>10% R<実働実践型学習>0% A<主体的参加型学習>80% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において社会科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。				

シラバス

科目名	ケーススタディ		担当者名	瀬戸ロ仁	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	行政に関連する様々な問題や課題を確認し、どう対処すべきかを考えていく。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	公務員やパイロット、社会人にふさわしい倫理・道徳観ならびに知識を身につける。				
授業概要	授業ごとに用意された各種資料から今日の行政や国民生活が抱えるテーマ・課題をおさえた上で、各自は行政の一員(あるいは社会の一員)として、ディスカッションしながら、それらの理解につとめ、どのように業務を行うべきか、また生活していくべきかを考えていく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	ガイダンス 前期授業の内容と目的、目標、概要の説明	19	後期ガイダンス 後期授業の内容の説明	
	2	公務員の不祥事対策 セクハラ	20	公務員の仕事の特徴 避難勧告	
	3	公務員の不祥事対策 パワハラ	21	公務員の仕事の特徴 海上保安庁	
	4	高齢者対策	22	公務員の仕事の特徴 警察	
	5	男女共同参画社会をめざして	23	公務員の仕事の特徴 租税や生活保護	
	6	大規模水害対策	24	公務員の仕事の特徴 し尿処理	
	7	子どもの貧困対策	25	公務員の仕事の特徴 ごみ処理	
	8	児童虐待対策	26	性的犯罪に関する治安対策について	
	9	個人情報保護法について	27	薬物規制について	
	10	特定秘密保護法について	28	タトゥーの是非	
	11	マイナンバー制度について考える	29	障害者の社会参加について	
	12	前期中間試験とその解説	30	現代家族の形態	
	13	規制緩和の意義と問題点	31	リスク社会をどう生きるか	
	14	憲法改正と国民投票法	32	表現の自由をめぐる問題(その1)	
	15	討論の仕方(その1)	33	表現の自由をめぐる問題(その2)	
	16	討論の仕方(その2)	34	混迷する世界情勢をどう生きるか	
	17	前期期末試験とその解説	35	後期期末試験とその解説	
18	まとめ 前期の全授業についての質疑応答	36	まとめ 後期の全授業についての質疑応答		
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	授業の終わりに質問を受け付ける	
	学習態度	30%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P《課題解決型学習》10% R《実働実践型学習》70% A《主体的参加型学習》10% G《海外体験型学習》10%				
講師プロフィール	担当教員は、サンケイスポーツ新聞社で記者として11年間プロ野球を担当。メジャーリーグを始めとする4大プロスポーツ、オリンピック、ワールドカップ等を取材。のち、産経新聞で記者として1年間政治等を取材。そのほか、東北福祉大学等で講師を担当。全国で公演活動を展開。				

シラバス

科目名	文章理解Ⅱ		担当者名	堀切昌美	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・通年 必修・選択 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	文章理解Ⅰの基礎力を定着させ、公務員採用試験一次突破することを目指し、国語力を高める				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	公務員一次試験の文章理解の問題に対し、自身をもって誤肢を消去することができる。社会人として恥ずかしくないように、熟語の読みや意味を理解できるようにする。				
授業概要	公務員科2学年との合同授業で、前期は公務員採用本試験に向けて、過去問を中心に実践力をつけていく。後期は、様々な文章を読み、要約したり意見交換することで社会に必要な実用文に慣れる。最終的に内定確定まで、就職試験対策のSPIIについてもフォローを継続し、指導していく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	文章合致問題を解く(1)	19	政府刊行物・白書から考える(1)	
	2	文章合致問題を解く(2)	20	政府刊行物・白書から考える(2)	
	3	趣旨把握問題を解く(1)	21	政府刊行物・白書から考える(3)	
	4	趣旨把握問題を解く(2)	22	政府刊行物・白書から考える(4)	
	5	空欄補充問題を解く(1)	23	政府刊行物・白書から考える(5)	
	6	空欄補充問題を解く(2)	24	SPI 言語分野対策(1)	
	7	文章整序問題を解く(1)	25	SPI 言語分野対策(2)	
	8	文章整序問題を解く(2)	26	後期中間試験とその解説	
	9	古文 合致問題・趣旨把握問題を解く(1)	27	グループディスカッション(1)	
	10	古文 合致問題・趣旨把握問題を解く(2)	28	グループディスカッション(2)	
	11	国語問題を解く(1)	29	グループディスカッション(3)	
	12	国語問題を解く(2)	30	いろいろな文章に触れる 業界紙	
	13	過去問題に挑戦(1)	31	いろいろな文章に触れる 雑誌	
	14	過去問題に挑戦(2)	32	グループワーク(1)	
	15	過去問題に挑戦(3)	33	グループワーク(2)	
	16	過去問題に挑戦(4)	34	新聞記事から考える(1)	
	17	過去問題に挑戦(5)	35	新聞記事から考える(2)	
	18	中間試験 ふりかえり	36	定期試験とその解説 まとめ	
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	適宜、小テストを実施する。また、調べたことを発表したり質問の場を設け知識の定着を図っていく。	
	学習態度	15%			
	レポート	15%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>40% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>20%				
講師プロフィール	担当教員は、私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。以上を通じて担当教員が培った日本語の能力や社会常識などを若い世代に学ばせるべく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。				

シラバス

科目名	総合講座Ⅱa		担当者名	堀切昌美	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	4単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・ 通年 必修・選択・ 必修選択	授業時間数	72時間(週講時数2)
授業目的	公務員・社会人にふさわしいマナーを身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	年2回実施される、文科省公認【ビジネス能力検定(ジョブパス)】の3級、2級の合格を目指す。				
授業概要	就職活動の準備として、また社会人の常識・マナーやモラルを習得するための学習を行う。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	キャリアとは / 仕事へのアプローチ/身だしなみの基本	19	時事問題を新聞記事から読み解く(その1)	
	2	将来の自分/仕事への取り組み方	20	時事問題を新聞記事から読み解く(その2)	
	3	組織人としての重要な心構え/仕事の進め方	21	社会人としてのルール・コンプライアンス	
	4	お客様第一主義・8つの意識	22	メモの重要性と取り方	
	5	コミュニケーションとビジネスマナーの基本	23	ビジネス会話の特徴・目的	
	6	指示の受け方と報告・連絡・相談	24	商談にあたっての心構えと行動	
	7	話し方と聞き方のポイント	25	会議の基本的な流れ・議事録のポイント	
	8	尊敬語・謙譲語・丁寧語の使い分け	26	人前で話す方法・話の構成	
	9	電話対応・来客対応と訪問のマナー	27	人前で話す 実践編	
	10	冠婚葬祭のマナー	28	チームワークの意義と重要性	
	11	仕事のマニュアル化	29	仕事に影響を及ぼす人間関係	
	12	ビジネス文書の基本	30	問題発見と解決の方法	
	13	統計データの作り方・読み方	31	論理的思考・分析方法	
	14	情報収集とメディアの活用	32	報告書の書き方・企画書の書き方	
	15	会社数字の読み方	33	社内文書と社外文書	
	16	ネットワークと電子メールの活用	34	国際経済と日本経済	
	17	ビジネス用語	35	ビジネスの基本と法律	
	18	前期定期試験 ふりかえり	36	後期試験とその解説	
成績割合	テスト	90%	学習FB方法	授業の開始終了後に質問を受け付ける。	
	学習態度	10%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	担当教員は、私立高校国語教師、公務員、日本語教師を経て民間企業に転身、営業部配属月間一千万円を売り上げ、昇格後、女性マネージャーとしてフランスルーブル美術館での着物ショーの裏方経験を持つ。以上を通じて担当教員が培ったビジネスマナーや社会常識などを若い世代に学ばせるべく、当校で10年以上教鞭をとり指導にあたっている。				

シラバス

科目名	応用ゼミⅡA		担当者名	杉谷武信	
学科	航空学科 大学コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開講期 必・選	前期・後期・通年 必修・選択・必修選択	授業時間数	36時間(週講時数2)
授業目的	政治や経済情勢が変化するなか、各自がパイロットや公務員、社会人として、どのように生きるべきかを考える。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	航空業界や一般企業で働きたいに必要な、将来の業界の動向について関心を高めつつ、論理的思考力やコミュニケーション力、幅広い視野、道徳性が身につく。				
授業概要	各自の将来の就職先となるさまざまな航空業界や一般企業の特徴を知ることが前提として、文献やweb資料を用いて、世界や日本の現状を調べながら、それらの将来について考える。さらに、各自が国民として、また社会人としてどのような社会をつくるべきかを考えていく。以上について、各自がレポートを作成し、プレゼンやディスカッションを行う。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	ガイダンス ゼミの方針について	19		
	2	資料の集め方	20		
	3	討論・質疑応答の方法	21		
	4	レジュメの作り方	22		
	5	プレゼンの仕方	23		
	6	レポートのまとめ方	24		
	7	社会の変化の探求(その1)	25		
	8	社会の変化の探求(その2)	26		
	9	社会の変化の探求(その3)	27		
	10	研究成果の中間報告会	28		
	11	航空業界や行政、企業はどのように変わっていくか(その1)	29		
	12	航空業界や行政、企業はどのように変わっていくか(その2)	30		
	13	航空業界や行政、企業はどのように変わっていくか(その3)	31		
	14	どのような社会をつくりたいか(その1)	32		
	15	どのような社会をつくりたいか(その2)	33		
	16	どのような社会をつくりたいか(その3)	34		
	17	研究成果報告 テクノス展に向けて	35		
	18	まとめ 全授業に関する質疑応答	36		
成績割合	レポート	35%	学習FB方法	授業開始前後に質問を受け付ける。	
	学習態度	30%			
	プレゼンテーション	35%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79 点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>30% R<実働実践型学習>0% A<主体的参加型学習>60% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	担当教員は専門学校において社会・人文科学分野で十分な教育経験を有し、また大学において社会学指導の経験を有す。				